

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和4年10月26日

事業所名: ハビネス国際ほみ放課後等児童デイサービス

公表:令和4年11月30日

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|----------------------------------|--|----|-----|---|---|
| 環境・体制整備 | ① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 9 | 1 | 広く使えるよう、工夫している | ゲームルームに、より大きな部屋がほしい |
| | ② 職員の配置数は適切である | 10 | 0 | | 0 |
| | ③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | 10 | 0 | 現在は、必要がない。 | 利用者に対して、都度対応しているが、車いす利用に向けた対応は、今後考えるべきと思われる。 |
| 業務改善 | ④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している | 10 | 0 | 常に連絡、話し合いを行っている。 | |
| | ⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 10 | 0 | 毎年、月を決め、アンケート実施している子ども | |
| | ⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 10 | 0 | | 0 |
| | ⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 10 | 0 | 外部評価により、社内研修を行っている。 | |
| 適切な支援の提供 | ⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 10 | 0 | 公的な研修の他に、年12回の社内研修を行っている。他の施設との研修があり、色々な意見をきくことができる。 | 本年度はコロナウィルスの影響で、公的な研修はなかった。 |
| | ⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 10 | 0 | | 0 |
| | ⑩ 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 10 | 0 | 全員、同じアセスメントシートにて行っている。ポルトガル語と両訳版となっている。 | |
| | ⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている | 10 | 1 | よく話し合いを行っている。チームワークは大 | |
| | ⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 10 | 1 | 常に、検証を行っている。子ども達の成長のために、職員が子ども達のニーズに応じて、工夫して適切な活動プログラムを行っている。 | 季節にあった工作や作品のギャラリー作り、音楽、音読、日本語、英語、ポルトガル語など、また行事も行っている。特にコロナ対策を怠って行っていない。 |
| | ⑬ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | 10 | 0 | | 0 |
| | ⑭ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 10 | 0 | 毎日、時間を決めて行っている。 | 毎朝、打ち合わせを行っている。 |
| | ⑮ 支援終了後は、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 10 | 0 | 翌日に行っている。毎回会議をしているので話し合いができる。 | |
| | ⑯ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 10 | 0 | 個人別記録ノートを作成している。 | |
| | ⑰ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | 10 | 0 | | 0 |
| ⑱ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている | 10 | 0 | | 0 | |



| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 | |
|--|--|--|-----|--|---|------------------------------------|
| 関係機関や保護者との連携 | ⑲ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 10 | 0 | | 0 | |
| | ⑳ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | 10 | 0 | 現在は、対象字が不在。以前は行っていた。 | 0 | |
| | ㉑ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 10 | 0 | | 0 | |
| | ㉒ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 10 | 0 | | 0 | |
| | ㉓ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | 10 | 3 | 出会ったときに、明るくあいさつするようにしている。 | 学校の送迎時のみ。コロナウィルスの影響もあり、実施できない。 | |
| | ㉔ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | 8 | 2 | | 0 | |
| 保護者への説明責任等 | ㉕ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 10 | 0 | | 0 | |
| | ㉖ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 10 | 0 | | 0 | |
| | ㉗ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 10 | 0 | | 0 | |
| | ㉘ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 10 | 0 | 学校や普段の生活の悩みの相談をしている。保護者とコミュニケーションを取ることで、適切な支援を行っている。 | | |
| | ㉙ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 8 | 2 | ハビネスカフェの企画があったが、コロナ禍でできないでいる。 | コロナウィルスが収まったら、ぜひ行いたい。 | |
| | ㉚ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 10 | 0 | 保護者の苦情があるとき、事情をよく聞いて、適切な対応をして解決している。 | | |
| | ㉛ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 10 | 0 | 季刊で写真掲載のニュースを発行している。 | | |
| | ㉜ 個人情報に十分注意している | 10 | 0 | 毎年研修を行い、啓蒙している。シュレッダーを毎回活用している。 | | |
| | ㉝ 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 10 | 0 | メール等を通して伝達するように心がけている。 | | |
| | ㉞ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | 9 | 1 | ボランティアの協力がある。 | コロナウィルスの影響がある。 | |
| | 非常時等の対応 | ㉟ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 10 | 0 | 掲示するとともに研修でシミュレーションを行っている。 | 防犯については、強化が必要。コロナ対策は、毎日欠かさず実施している。 |
| | | ㊱ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 10 | 0 | 年2回行っている。わかりやすく説明したり、ビデオを見せるなどして、工夫を支、子どもたちも真剣に聞いている。 | |
| | | ㊲ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 10 | 0 | 毎年、社内研修内容に取り入れている。 | |
| | | ㊳ どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | 10 | 0 | | 0 |
| ㊴ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | | 10 | 0 | グルテンアレルギーの子どもに対し別の食事を用意する等の対応をしている。 | | |
| ㊵ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | | 10 | 0 | | 0 | |

【事業所における自己評価集計結果グラフ】

